

= 静岡硬式野球部 創部90周年記念式典に参加して =

静岡創立120周年を来年に控え、昭和3年に創部された静岡硬式野球部が90周年を迎えました。

その創部90周年記念式典が昨日平成29年1月14日(土)にホテルアソシア静岡 駿府の間で行われました。

野球部OB会会長 羽山義孝氏から、熱心に硬式野球部の応援を続けているファンということで、式典への出席を求められました。式典参加者は来賓30名を含め年代別硬式野球部在籍者合計200名の大規模な会合でした。

来賓出席者として眞木校長他の学校関係者、鈴木硬式野球部長、高田監督、平野静岡同窓会顧問、赤石静岡同窓会長、伊藤静岡硬式野球部後援会長、安江静岡野球部ネット会長、亀山・鈴木元野球部部長、見城元監督、堀井父母会会長、村岡・水鳥氏が来賓一覧に記載され、慎木静岡校長、赤石静岡同窓会長が来賓として祝辞を述べられた。

最後に私に発言を求められたのには正直なところ驚きました。

一ファンに過ぎない私に出席の声をかけて頂き発言の機会まで気配りを頂いた羽山OB会長に感謝し概ね次のような内容でお話をさせていただきました。

私が静岡硬式野球部の所謂追っかけを始めたのは勤務先を定年退職となった平成4年からで今年で25年になります。第二の人生の過ごし方として健康法を兼ねて野球観戦を選択しました。

最初の観戦は岐阜県大垣北球場の春季東海大会一回戦の四日市工業高校戦。春の選抜出場の強敵で惜敗しました。

静岡県大会を回顧した高野連の記録誌「あゆみ」に静岡商が強豪を連破して決勝進出を果たした。昭和50年以来17年ぶりの快挙でしたと記述しており、夏の大会もベスト4に進出しているので強い静岡のイメージで追っかけにのめりこみました。

25年間、公式戦と関東遠征はほとんど全試合を観戦しました。静岡グラウンドで行われた練習試合も大半は観戦してきました。

長期間観戦を続けられたのは静岡同窓会関東支部の存在と連動します。関東地方に在住の皆さんは母校の同窓会活動に強い関心をお持ちで私の試合の情報を熱心に聞いてくれました。私は応援部会長という立場もあり使命感のようなものを感じて来ました。

家内名義を含めて40回の新幹線JR割引を1年間に使用しております。全てが野球観戦ではありませんが単純に40回を25倍しますと丁度1,000回になります。冬の試合禁止が3か月ありますがJRを利用しない関東遠征や土曜・日曜の連戦をホテル利用で観戦することもあり、1,000回近くの観戦になるかも知れません。

静岡で行われた試合のことには触れないつもりでしたが、見城監督がお見えになっていましたので、ピンチを切り抜けてベンチに戻る大野投手を抱きかかえながら迎える監督の姿が印象に残るとお伝えしました。

関東遠征の早稲田実業戦で斎藤佑樹投手から四球を選び「よっしゃー」と言って一塁に駆け込んだ増井主将の気合が忘れられないこと、一昨年の桐光学園戦で立正大学に進学した望月翔太郎選手がフェンス越えのサヨナラホームランを打った感動と全国区クラスの強豪校に連勝した強い静岡の認識。

一方で昨年の関東遠征最終戦で0封の連敗をした現状についても触れました。

昨年11月に行われた韮山高校野球部創部120周年記念招待試合観戦の印象として、ネット裏に陣取った多数の観戦者と統制のとれた声援が見事で、チーム力とあいまって伝統の重みを感じました。

硬式野球部の創立100周年にも健康に留意し参加させてもらいたいことを結びとして祝辞を終わりました。

眞木校長先生、見城元監督、鈴木部長、平野同窓会顧問、赤石同窓会長、羽山OB会長、大野ヤマハ投手、増井浜松北高校野球部監督の皆様方と親しく懇親をさせていただき大変有意義な機会を頂きました。

平成29年1月15日

静岡同窓会 関東支部
応援部会長 長谷川 勉



ホテルアソシアでの記念式典の全景



挨拶する眞木校長先生



挨拶する赤石同窓会長



上：全員で応援歌を歌う
下：OBから寄贈された闘魂の旗



左資料：硬式野球部後援会10周年記念式典で配布された冊子
中央下：静商硬式野球部後援会報
中央上：創部90周年を記念して作られたお酒（焼酎）
右資料：創部90周年記念式典で配布された冊子